

持42

459

一  
文  
報

52

東 京 圖 書 館

一  
一  
〇  
冊

一  
七  
一  
號

四  
七  
架

八  
函

音  
樂  
類

和  
書  
門



天敵

唐後漢の帝は位を譲りて  
 此國の傍に王伯母とて  
 乃者彼者一人をよみて  
 天敵とあつてかきを  
 天敵と名付け  
 度はれり母受中は天より  
 敵降るる胎内は宿る  
 みておま

天敵

きんこふもあはれいふくもあはれいふく  
るもあはれいふくもあはれいふく  
ていふもあはれいふくもあはれいふく  
此由帝國の敷と内裏の敷と  
敷深く惜敷と抱まはるる隠の敷  
れあはれいふくもあはれいふく  
のあはれいふくもあはれいふく

と内裏の敷と内裏の敷と  
直れくもあはれいふくもあはれいふく  
れは更なるもあはれいふくもあはれいふく  
敷まあはれいふくもあはれいふく  
伯と直れくもあはれいふくもあはれいふく  
ひいふくもあはれいふくもあはれいふく  
世もあはれいふくもあはれいふく

天鼓







打つて、クリ地其積石よめりて、天國を

うめりて、サレ護國の蟠まる可き

いさなり、サレまもりて、天の

親よ、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

信し、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

牙を、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

波よ、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

思ひの、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

沈む、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

留、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

信、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

も、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

細く、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

首、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

首、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、

首、天の思ふに、天の思ふに、天の思ふに、







帝弟しむまも書よをさかへて大歸りて  
 昌かよんていりてあやふき事なほ  
 苦みの海に沈む海に打撃て可畏の  
 きあやも陽あつては思はる外は  
 弟よほほしむ品あつて是事  
 よう有縁らふ早老石思後も早更  
 らむあつて可なりとてあつて

なる成者そあつてなるの世早老きつて教  
 七あつて成るは男のさ新へ是は顔  
 弟よあつてた中早老梅さ天教う亡靈  
 弟よあつてた中早老梅さ天教う亡靈  
 如き何の教うらうて具書むなるる  
 そ天教のあつてあつてあつて教を  
 信事早老時や備の物院とて教を自



埒の月よ唄き妙に戯き霞さるる  
 袖をむもも夜遊の舞樂も時よ  
 五更の一点鐘をあり鳥さハ聲乃  
 ほのくもおもひ明志るそ時ノ鼓  
 教いさつれしもさるる色よ又打響て  
 うつら夢よりまじ打響てうつら夢は  
 かりしと狂ありよまされ

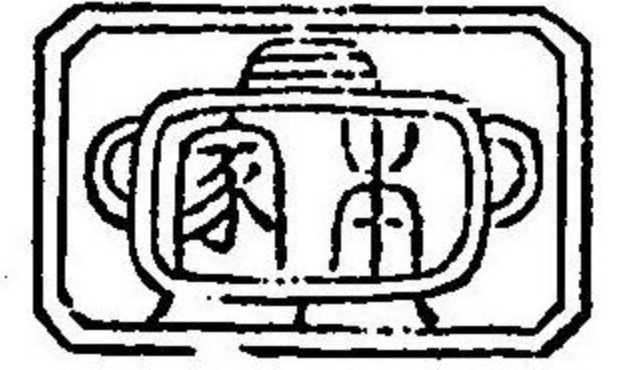
右之本者觀世太夫織部  
 章句真本令放行畢

正徳六丙 申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十七年三月六日翻刻御届  
同年四月十二日別製本御届

翻刻人

京都府平民

寺田熊次郎



下京區第五組麩屋町  
錦小路九梅屋町十三番戶

定價四錢

